

作成日：2020年08月17日

改訂日：2024年07月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称: ショーボンド CPJ-L ミニパック プレミックスモルタルパック
会社名: ショーボンドマテリアル株式会社
住所: 埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門: 品質保証課
電話番号: 049-225-5611 F A X: 049-225-5616
緊急連絡先: 品質保証課 電話番号: 049-225-5611
整理番号: CPJ-L ミニパック プレミックスモルタルパック-05

推奨用途及び使用上の制限: 工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性:	皮膚腐食性/刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分1
	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分1A
	生殖毒性	区分1A
	生殖毒性・授乳影響	授乳に対するまたは授乳を介した影響に関する追加区分
	特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分2(呼吸器系, 消化管)
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器, 免疫系, 腎臓)

※記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
H350 発がんのおそれ
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H362 授乳中の子に害を及ぼすおそれ
H371 呼吸器系、消化管の障害のおそれ
H372 長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害

注意書き

予防策:

熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

- 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
 粉塵／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
 環境への放出を避けること。
- 対応： 火災の場合には、消火に粉末／炭酸ガス／泡消火器を使用すること。
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
 汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
 吸入した場合：空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
 下記の場合は直ちに医師の診断／手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。
- 保管： 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃棄： 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
結晶質シリカ	(1)-548	14808-60-7	40～50
ポルトランドセメント(アスベストを含まず、 結晶質シリカ 1%未満)	該当なし	65997-15-1	25～35
水酸化カルシウム	(1)-181	1305-62-0	2 未満
硫酸ナトリウム	(1)-501	7757-82-6	2 未満
炭酸リチウム	(1)-154	554-13-2	1 未満

※ポルトランドセメントの原料に酸化マンガン (CAS : 1344-43-0) が 1%未満含有している。

4. 応急処置

- 目に入った場合： 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤： この製品自体は燃焼しない。
 使ってはならない消火剤： 特になし。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
- 環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境への影響を起ささないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。

- 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
- 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
- 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

- 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
- 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
- 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
ホームページアドレス:<https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
- 接触回避: 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管 :

- 技術的対策: 保管場所には、危険物を貯蔵し取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設定を設けること。
- 保管条件: 日光の直射を避けて保管する。
火気、熱源から離して保管する。
容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
- 混色禁止物質: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料: 金属製で密閉可能な容器。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先 : <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
結晶質シリカ	未設定	0.03mg/m3	設定あり
ポルトランドセメント	0.05mg/m3 (マンガン及びその化合物、マンガンとして)	1mg/m3(吸入性粉じん) 4mg/m3(総粉じん) Mn 及び Mn 化合物として 0.02mg/m3(吸入性粉じん) 0.1mg/m3(総粉じん)	設定あり
水酸化カルシウム	未設定	未設定	設定あり
硫酸ナトリウム	未設定	未設定	未設定
炭酸リチウム	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
結晶質シリカ	未設定	未設定
ポルトランドセメント	未設定	未設定
水酸化カルシウム	未設定	未設定
硫酸カルシウム	未設定	未設定

炭酸リチウム	未設定	未設定
--------	-----	-----

設備対策： 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具： 防塵マスク、必要な個人用保護機器を使用すること。
手の保護具： 不浸透性の保護手袋
目の保護具： 保護メガネ
皮膚及び身体の保護具： 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等： 固体(粉末)
色： 灰色
臭い： 無臭
沸点、初留点及び沸騰範囲： 情報なし
可燃性： 不燃性
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界： 爆発性なし
引火点： 不燃性
自然発火温度： 不燃性
分解温度： 情報なし
pH： 水と接触すると12～13
動粘性率： 該当しない
n-オクタノール／水分配係数(log値)： 情報なし
蒸気圧： 情報なし
密度及び／又は相対密度： 2.78g/cm³(20℃)
相対ガス密度： 該当しない
粒子特性： 情報なし

10. 安定性および反応性

安定性： 普通の条件での反応はない。
反応性： 水と反応して安定固化する。
危険有害反応可能性 該当しない。
避けるべき条件： 水及び湿気を避ける。
混触危険物質： 酸性の製品。水と接触すると強アルカリ性(pH12～13)を呈する。
危険有害な分解生成物： 該当しない。

11. 有害性情報

急性毒性： 経口： データ不足のため分類できない。
経皮： データ不足のため分類できない。
吸入(気体)： データ不足のため分類できない。
吸入(蒸気)： データ不足のため分類できない。
吸入(粉じん・ミスト)： データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性／刺激性： GHS 分類 区分 1
水と接触すると強アルカリ性(pH 12～13)を呈するため、鼻の内部組織、皮膚に炎症を起こす可能性がある。
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性： GHS 分類 区分 1
水と接触すると強アルカリ性(pH 12～13)を呈するため、眼に重篤な損傷を与える可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感作性： データ不足のため分類できない。
原材料の一部に極微量のクロム化合物が含まれており、六価クロムに対して過敏である場合にアレルギーが起こる可能性がある。
生殖細胞変異原性： GHS 分類 区分 2
原材料の一部に含まれる結晶質シリカについて、In vivo では、気管内注入

によるラット肺胞上皮細胞を用いた hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の hprt 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺胞上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分 2 とした。

なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。

発がん性:

GHS 分類 区分 1A

原材料の一部に含まれる結晶質シリカについて、多くの疫学研究結果において、本物質 (石英) を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。

一方、実験動物では雌雄ラットに本物質 (空気力学的中央粒子径 (MMAD): 1.3 μm) を 1 mg/m³ で 2 年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質 (MMAD: 2.24 μm) を 12 mg/m³ で 83 週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質 (MMAD: 1.8 μm) を 6.1、30.6 mg/m³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100c (2012))。

以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997)、IARC 100C (2012))。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第 1 群」に (産衛学会勧告 (2015))、ACGIH が 2004 年以降「A2」に (ACGIH (7th, 2006))、NTP が結晶質シリカ (吸入性粒子径) に対して、「K」に分類している (NTP RoC (13th, 2014))。よって、本項は区分 1A とした。

生殖毒性:

GHS 分類 区分 1A・授乳に対する又は授乳を介した影響に関する追加区分

製品中に含まれる炭酸リチウムはリチウムを含む精神神経用剤であり、妊娠中に服用した女性から生まれた児にエプスタイン奇形 (先天性の心血管系奇形) 発生の報告が多数ある (PIM 309F (2000)、Birth Defects (3rd, (2000)、HSDB (2007))。その後の調査では児の心血管系奇形の発生は確認できず、リチウムを含む治療薬による新生児障害のリスクは思ったよりも低いとの報告 (KemI-Riskline NR 2002:16) もあるが、リチウムが胎盤を通過することは知られており (KemI-Riskline NR 2002:16)、医薬品添付文書おける使用上の注意として、妊娠または妊娠している可能性のある婦人には投与禁忌とされている (医療用医薬品集 (2010))。また、リチウムは血清中に近い割合で乳汁中に排泄される (PIM 309F (2000)) ので使用上の注意として、授乳婦へやむを得ず投与する場合には授乳を中止させる (医療用医薬品集 (2010)) と記載されている。なお、動物試験ではラットまたはマウスの妊娠期間中に経口投与により、同腹仔数減少、吸収胚増加、胎児死亡増加などが見られ (IUCLID (2000))、マウスでは器官形成期の経口投与により、口蓋裂、肋骨癒合、脳脱出などの奇形の発生が報告されている (IUCLID (2000))。よって、本項は区分 1A とした。

特定標的臓器毒性(単回ばく露):

GHS 分類 区分 2(呼吸器、消化管)

製品中最大で約 1.4%含まれる水酸化カルシウムに、ヒトに気道刺激性、粘膜腐食性があり、咳、粘膜の火傷、肺水腫、嘔吐、胃痙攣を引き起こすとの報告がある (ACGIH (7th, 2001)、EPA Pesticide (2005)、HSDB (Access on September 2014))。

実験動物のデータはない。ヒトの気道を刺激し肺水腫を引き起こすとの記載がある。

また原材料の一部であるポルトランドセメントに気道刺激性があるとの報告がある (ACGIH (7th, 2010))。

以上により、区分 2(呼吸器)とした。

また、製品中最大で 1.4%含まれる硫酸ナトリウムについて、ヒトにおいて医療目的で緩下剤として約 300 mg/kg、最大限 20 g の用量で経口投与により使用されたが、激しい下痢と腹部痙攣を生じるために、使用されなくなりつつある (SIDS (2006))。

以上により、区分 2(消化管)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露):

GHS 分類 区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)

原材料の一部であるポルトランドセメントについて、吸入経路では、ヒトにおいて良性のじん肺症を生じ、気管支炎、呼吸困難、咳、痰、肺気腫、胸痛がみられるとの報告がある (ACGIH(7th, 2010)、DFGOT vol. 11 (1998))。実験動物についての有用な情報はない。

原材料の一部に含まれる結晶質シリカについて、ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響 (珪肺症、肺がん、肺結核) が確認されている。

このほか、自己免疫疾患 (強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎)、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000))。

この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている (SIDS (2013))。

実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている (SIDS (2013))。

以上により、区分 1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。

誤えん有害性:

データ不足のため分類できない。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性

分類できない

生態毒性:

データなし。

残留性・分解性:

データなし。

生体蓄積性:

データなし。

土壌中の移動性:

データなし。

オゾン層への有害性:

原材料のいずれの物質もモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

1 3. 廃棄上の注意

塗料・容器等の廃棄物は、許可を受けた産廃物処理業者と契約して処理する。

容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

排水処理・焼却等により発生した廃棄物についても“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”及び関係する法規に従って処理するか業者に委託する。

廃塗料等を焼却する場合、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ処理する。または焼却炉の火室への噴霧し焼却する。ただし、ダイオキシンなどの有害ガスが発生する恐れがある場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び処理すること。

特定管理産業廃棄物 (廃油) に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

塗料製品、廃塗料などは、悪臭防止法の悪臭物質に該当するので、廃棄にはこの法規に準じて行う。

環境に配慮し、空容器は内容物を完全に除去後、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分

を行う。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れの無いことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制

輸送規制には該当しない。
国連分類：非該当
国連番号：非該当

1 5. 適用法令

労働安全衛生法：	:粉じん障害防止規則 :第 57 条の 2 表示対象物質 「結晶質シリカ(がん原生物質)」「水酸化カルシウム」 「炭酸リチウム」(令和 6 年 4 月 1 日より) 「硫酸ナトリウム」(令和 7 年 4 月 1 日より)
	:第 57 条の 2 第 1 項 通知対象物質 「結晶質シリカ(がん原生物質)」「水酸化カルシウム」 「マンガン及びその無機化合物」 「炭酸リチウム」(令和 6 年 4 月 1 日より) 「硫酸ナトリウム」(令和 7 年 4 月 1 日より)
	:第 57 条の 3 リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 「結晶質シリカ」「マンガン及びその無機化合物」
	:第 65 条の 2 第 2 項 作業環境評価基準 「土石、岩石、鉱物、金属又は炭素の粉じん」 「マンガン及びその化合物」
毒物及び劇物取締法：	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)：	非該当
消防法：	非該当
労働基準法：	:疾病化学物質 「マンガン及びその化合物」
じん肺法：	:第 2 条 施行規則第 2 条別表粉じん作業 「結晶質シリカ」

1 6. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート(SDS)：JIS Z 7253：2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月(社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカー SDS

作成日：2020年08月17日

改訂日：2024年07月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称:ショーボンド CPJ-L ミニパック 粗骨材パック
会社名:ショーボンドマテリアル株式会社
住所:埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門:品質保証課
電話番号:049-225-5611 FAX:049-225-5616
緊急連絡先:品質保証課 電話番号:049-225-5611
整理番号:CPJ-L プレミックスモルタルパック用粗骨材 -05

推奨用途及び使用上の制限:工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性:	生殖細胞変異原性	区分2
	発がん性	区分1A
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(呼吸器、免疫系、腎臓)

※記載なきGHS分類区分:区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 危険

危険有害性情報: H341 遺伝性疾患のおそれの疑い
H350 発がんのおそれ
H372 長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器、免疫系、腎臓の障害

注意書き

予防策: 熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器を使用すること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合:口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合:多量の水と石けんで洗うこと。
汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合:空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で

休息させること。
 下記の場合は直ちに医師の診断／手当を受けて下さい。
 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、
 身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。
 保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が
 立ち入れないような管理された場所で保管すること。
 廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、
 業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別: 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
結晶質シリカ	(1)-548	14808-60-7	70~80

4. 応急処置

目に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
 皮膚に付着した場合: 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
 吸入した場合: 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
 飲み込んだ場合: 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

消火剤: この製品自体は燃焼しない。
 使ってはならない消火剤: 特になし。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項: 保護具及び緊急時措置:直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
 環境に対する注意事項: 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
 回収・中和: 土砂等(の不燃物)で囲みビニールシート等でおおい、蒸気の発生を抑えながら回収する。
 封じ込み及び浄化の方法・機材: 拡散を防止し、流出物をすくい取るか、又は、ウェス等を使用して空容器に回収する。
 二次災害の防止策: 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、火災の発生を防ぐ。
 着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :
 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
 安全な取り扱い注意事項: 周辺で火気の使用、発生のないこと。
 使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。

ホームページアドレス：<https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 粉じん、ヒュームを吸入しないこと。
 屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 「10.安定性及び反応性」を参照。

接触回避：
 保管 技術的対策：
 保管条件：
 混色禁止物質：
 容器包装材料：

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先：<https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
結晶質シリカ	未設定	0.03mg/m3	設定あり

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
結晶質シリカ	未設定	未設定

設備対策：
 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
 電気機器は防爆構造とする。
 取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

呼吸器の保護具：
 手の保護具：
 目の保護具：
 皮膚及び身体の保護具：

9. 物理的および化学的性質

物理的状態、形状等：
 色：
 臭い：
 沸点、初留点及び沸騰範囲：
 可燃性：
 爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：
 引火点：
 自然発火温度：
 分解温度：
 pH：
 動粘性率：
 n-オクタノール/水分配係数(log値)：
 蒸気圧：
 密度及び/又は相対密度：
 相対ガス密度：
 粒子特性：

1 0. 安定性および反応性

安定性:	普通の条件での反応はない。
反応性:	情報なし。
危険有害反応可能性:	水酸化アルカリ、フッ化水素、フッ酸等と危険な反応を生じる。
避けるべき条件:	情報なし。
混触危険物質:	情報なし。
危険有害な分解生成物:	情報なし。

1 1. 有害性情報

急性毒性:	経口:	データ不足のため分類できない
	経皮:	データ不足のため分類できない
	吸入(気体):	データ不足のため分類できない
	吸入(蒸気):	データ不足のため分類できない
	吸入 (粉じん・ミスト):	データ不足のため分類できない
皮膚腐食性／刺激性:		データ不足のため分類できない
眼に対する重篤な損傷 ／眼刺激性:		データ不足のため分類できない
呼吸器感作性:		データ不足のため分類できない
生殖細胞変異原性:		GHS 分類 区分 2 結晶質シリカについて、In vivo では、気管内注入によるラット肺胞上皮細胞を用いた hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、投与方法は不明であるが、マウス肺組織の hprt 遺伝子突然変異試験で陰性、腹腔内投与によるマウス小核試験で陰性、ばく露方法は不明ながら、ヒトリンパ球の染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陽性、ラット肺、末梢血を用いた酸化 DNA 傷害試験で陽性又は陰性、ラット肺上皮細胞の DNA 切断試験で陽性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験で陽性、陰性の結果、哺乳類培養細胞の小核試験で陽性、陰性の結果、染色体異常試験、姉妹染色分体交換試験で陰性である (SIDS (2013)、CICAD 24 (2000)、DFGOT vol. 14 (2000)、IARC 68 (1997))。以上より、ガイダンスに従い、区分 2 とした。 なお、本物質の遺伝毒性は、当該物質からの、あるいは当該物質による炎症細胞からの活性酸素種に起因すると考えられる (SIDS (2013)、IARC 100C (2012))。
発がん性:		GHS 分類 区分 1A 結晶質シリカについて、多くの疫学研究結果において、本物質 (石英) を含む結晶質シリカへの職業ばく露と肺がんリスクの増加との間に正の相関が認められており、特に複数の研究結果をプールし異なるメタ解析を行っても、相対リスクは一貫して有意な増加を示した (IARC 100C (2012)、SIDS (2013))。 すなわち、本物質の形状を有する結晶質シリカ粉じんの吸入ばく露によりヒトで肺がんの発症リスクが増加するのは十分な証拠があるとしている (IARC 100C (2012))。 一方、実験動物では雌雄ラットに本物質 (空気力学的中央粒子径 (MMAD): 1.3 μm) を 1 mg/m ³ で 2 年間吸入ばく露した試験、また雌ラットに本物質 (MMAD: 2.24 μm) を 12 mg/m ³ で 83 週間鼻部ばく露した試験において、ばく露群では肺腫瘍の有意な増加がみられ、組織型としては腺がんが多かった。さらに、雌ラットに本物質 (MMAD: 1.8 μm) を 6.1、30.6 mg/m ³ で鼻部ばく露した試験でも、用量依存的に肺腫瘍の増加がみられ、組織型では扁平上皮がんが最多で、細気管支/肺胞上皮がん、又は腺腫も多くみられた (IARC 100c (2012))。 以上、ヒト及び実験動物での発がん性情報より、IARC は本物質粉じんばく露によるヒト発がん性に対し、1997 年に「グループ 1」に分類し、2012 年の再評価でも分類結果を変更していない (IARC 68 (1997)、IARC 100C

特定標的臓器毒性(単回ばく露): (2012)。他の国際機関による発がん性分類結果としては、日本産業衛生学会が「第1群」に(産衛学会勧告(2015))、ACGIHが2004年以降「A2」に(ACGIH(7th, 2006))、NTPが結晶質シリカ(吸入性粒子径)に対して、「K」に分類している(NTP RoC(13th, 2014))。よって、本項は区分1Aとした。
データ不足のため分類できない

特定標的臓器毒性(反復ばく露): GHS分類 区分1(呼吸器、免疫系、腎臓)
結晶質シリカについて、ヒトにおいて、多くの疫学研究において、本物質の職業ばく露と呼吸器への影響(珪肺症、肺がん、肺結核)が確認されている。
このほか、自己免疫疾患(強皮症、関節リュウマチ、多発性関節炎、混合結合組織疾患、全身性紅斑性狼瘡、シェーグレン症候群、多発性筋炎、結合織炎)、慢性腎疾患及び無症状性の腎変性もみられている(SIDS(2013)、CICAD 24(2000)、DFGOT vol. 14(2000))。
この腎臓の疾患は自己免疫が関連していると考えられている(SIDS(2013))。
実験動物においても、ラットを用いた反復吸入ばく露試験により肺の線維化が確認されている(SIDS(2013))。
以上により、区分1(呼吸器、免疫系、腎臓)とした。
データ不足のため分類できない

誤えん有害性: データ不足のため分類できない

1.2. 環境影響情報

水生環境有害性: データなし。
生態毒性: データなし。
残留性・分解性: データなし。
生体蓄積性: データなし。
土壌中の移動性: データなし。
オゾン層への有害性: 原材料のいずれの物質もモントリオール議定書の付属書に列記されていない。

1.3. 廃棄上の注意

塗料・容器等の廃棄物は、許可を受けた産廃物処理業者と契約して処理する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。
排水処理・焼却等により発生した廃棄物についても“廃棄物の処理及び清掃に関する法律”及び関係する法規に従って処理するか業者に委託する。
廃塗料等を焼却する場合、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ処理する。または焼却炉の火室への噴霧し焼却する。ただし、ダイオキシンなどの有害ガスが発生する恐れがある場合には、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約を結び処理すること。
特定管理産業廃棄物(廃油)に該当するので、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
塗料製品、廃塗料などは、悪臭防止法の悪臭物質に該当するので、廃棄にはこの法規に準じて行う。
環境に配慮し、空容器は内容物を完全に除去後、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

1.4. 輸送上の注意

注意事項
取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

国内規制
輸送規制には該当しない。
国連分類: 非該当
国連番号: 非該当

15. 適用法令

労働安全衛生法:	粉じん障害防止規則 第 57 条の 2 表示対象物質 「結晶質シリカ(がん原生物質)」 第 57 条の 2 第 1 項 通知対象物質 「結晶質シリカ(がん原生物質)」 第 57 条の 3 リスクアセスメントを実施すべき危険有害物 「結晶質シリカ(がん原生物質)」
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法):	非該当
消防法:	非該当
じん肺法:	第 2 条 施行規則第 2 条別表粉じん作業 「結晶質シリカ」

16. その他の情報

注意事項：本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したものです。必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。
本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル、作業場の表示及び安全データシート (SDS) : J I S Z 7 2 5 3 : 2 0 1 9)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月 (社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカー SDS

作成日：2020年08月17日

改訂日：2024年07月01日

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品の名称: ショーボンド CPJ-L ミニパック 混和液
会社名: ショーボンドマテリアル株式会社
住所: 埼玉県川越市芳野台2-8-10
担当部門: 品質保証課
電話番号: 049-225-5611 F A X: 049-225-5616
緊急連絡先: 品質保証課 電話番号: 049-225-5611
整理番号: CPJ-L ミニパック 混和液 -05

推奨用途及び使用上の制限: 工業用、所定の用途以外には使用しないこと

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性: 引火性液体 区分に該当しない
健康に対する有害性: 眼に対する重篤な損傷/眼刺激性 区分2A
※記載なきGHS分類区分: 区分に該当しない/分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語: 警告

危険有害性情報: H319 強い眼刺激

注意書き

予防策: 使用前に SDS を参照すること。
すべての安全注意を読み、理解するまで取り扱わないこと。
熱/火花/裸火/高温のもの のような着火源から遠ざけること。
作業中、乾燥中、養生中とも屋外または換気の良い場所で使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
取り扱い後は、うがいを行い、石鹸水等で手洗いを十分に行うこと。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用し、できるだけ皮膚に触れないようにすること。
ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
環境への放出を避けること。

対応: 火災の場合には、消火に粉末/炭酸ガス/泡消火器/乾燥砂を使用すること。
眼に入った場合: 水で最低 15 分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
汚染された衣類は直ちに脱ぎ、再使用する場合は洗濯すること。
吸入した場合: 空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。
下記の場合は直ちに医師の診断/手当を受けて下さい。

- 眼に入った場合、飲み込んだ場合、皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い場合、身体上の異常が生じた場合、暴露または暴露の懸念がある場合。
 漏出物を回収すること。
- 保管 容器を密閉し、換気の良い冷暗所で、施錠するなど関係者以外が立ち入れないような管理された場所で保管すること。
- 廃棄 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に、業務委託し廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別： 混合物

化学名又は一般名 (成分)	官報公示整理番号 化審法	CAS No.	濃度又は 濃度範囲(含有量%)
スチレン・ブタジエン共重合体	登録済み	登録済み	20～30
界面活性剤	登録済み	登録済み	1～5
水等	登録済み	登録済み	65～75

4. 応急処置

- 目に入った場合： 水で最低 15 分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外し、その後も洗浄をつづけること。直ちに眼科医の診断を受ける。
- 皮膚に付着した場合： 布で素早く拭き取り、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激、または、発疹が生じた場合は、医師の診断を受ける。
- 吸入した場合： 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は、医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合： 直ちに水で口をすすぎ、医師の診断を受ける。

5. 火災時の措置

- 消火剤： 本製品はそのままでは可燃性はない。もし製品乾燥物に着火した場合は水、粉末、炭酸ガス、泡、砂等の一般的な消火剤を使用する。
- 使ってはならない消火剤： 特になし。
- 特有の消火方法： 可燃性のものを周囲から取り除く。消火活動は風上から消火する。
 高温にさらされる密閉容器は水をかけて冷却する。
 消火のための放水等により、製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
- 消火を行うものの保護： 消火作業の際は、必ず耐熱性着衣などを着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項： 保護具及び緊急時措置：直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離すること。関係者以外の立ち入りを禁止すること。
 作業者は適切な保護具(手袋、保護眼鏡等)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避けること。風上に留まること。低地から離れること。
- 環境に対する注意事項： 河川等へ排出され、環境への影響を起ささないように注意する。河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署・消防署・漁協等に直ちに連絡を取る。
 大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
- 回収： 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
 現地法に基づき廃棄処分する。
- 封じ込み及び浄化の方法・機材： 危険でなければ漏れを止める。
 放出現場には風上から近づくこと。
- 二次災害の防止策： 漏出した場所の周辺には、ロープを張るなどの措置を行い、作業員以外の立ち入りを禁止する。
 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
 関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い :

- 技術的対策: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
- 局所排気・全体換気: 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なうこと。
- 安全な取り扱い注意事項: 皮膚感作障害の症歴を持つ人を、本製剤が使用されるいかなる工程にも就業させてはいけない。
 周辺で火気の使用、発生のないこと。
 使用前にショーボンドマテリアルホームページ「樹脂製品の取り扱いについて」「樹脂製品を安全にご利用いただくために」を必ず参照すること。
 ホームページアドレス:<https://www.sb-material.co.jp/resin/download.html>
 すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
 接触、吸入又は飲み込まないこと。
 屋外又は換気の良い区域のみで使用すること。
 取扱い後は、よく手を洗うこと。
 洗浄水は、国及び地方自治体の規制に従い処分する。
- 接触回避: 「10.安定性及び反応性」を参照。

保管 :

- 技術的対策: 換気の良い乾燥した5℃から35℃の屋内で直射日光を避け、飲食物から離して保管する。
- 保管条件: 容器を密閉して換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
- 混色禁止物質: 「10.安定性及び反応性」を参照。
- 容器包装材料: 水含有製品の為、SUS容器、ポリ容器、内面ポリマーコーティングした容器等。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (ACGIH) 参照先 : <https://www.acgih.org/>

	管理濃度	許容濃度(産衛学会)	許容濃度(ACGIH)
スチレン・ブタジエン共重合体	未設定	未設定	未設定
界面活性剤	未設定	未設定	未設定
水等	未設定	未設定	未設定

	厚生労働大臣が定める濃度の基準	
	8時間濃度基準値	短時間濃度基準値/天井値
スチレン・ブタジエン共重合体	未設定	未設定
界面活性剤	未設定	未設定
水等	未設定	未設定

- 設備対策: 換気の悪い場所では局所排気装置等の排気のための装置を設置する。
電気機器は防爆構造とする。
取扱い場所の近くには、洗顔、身体洗浄のための設備を設ける。

保護具

- 呼吸器の保護具: 必要な個人用保護機器を使用すること。
- 手の保護具: 不浸透性の保護手袋
- 目の保護具: 保護メガネ
- 皮膚及び身体の保護具: 不浸透性の作業衣および保護具を着用する。

9. 物理的および化学的性質

- 物理的状態、形状等: 液状
- 色: 白色
- 臭い: ラテックス臭
- 融点/凝固点: データなし

沸点,初留点及び沸騰範囲:	データなし
可燃性:	燃焼性なし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界:	燃焼性なし
引火点:	燃焼性なし
自然発火温度:	燃焼性なし
分解温度:	データなし
pH:	データなし
動粘性率:	データなし
溶解度:	データなし
n-オクタノール/水分配係数(log値):	データなし
蒸気圧:	データなし
密度及び/又は相対密度:	1.0g/cm ³
相対ガス密度:	データなし
粒子特性:	データなし
その他情報:	データなし

1 0. 安定性および反応性

安定性:	通常の取り扱い条件下では安定である。
反応性:	通常の取り扱い条件下では安定である。
避けるべき条件:	加熱、高温、直射日光、凍結(氷点下)。
混触危険物質:	水禁忌物質。
危険有害な分解生成物:	情報なし。

1 1. 有害性情報

急性毒性:	経口:	急性毒性推定値が 5000mg/kg 超のため区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
	経皮:	データ不足のため分類できない。
	吸入(気体):	GHS 定義による気体ではない。
	吸入(蒸気):	データ不足のため分類できない。
	吸入 (粉じん・ミスト):	データ不足のため分類できない。
皮膚腐食性/刺激性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性:		眼区分 2 の成分合計が 65%のため、区分 2A とした。
呼吸器感受性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
皮膚感受性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖細胞変異原性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
発がん性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
生殖毒性:		危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に

生殖毒性・授乳影響:	該当しないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。
誤えん有害性:	危険有害性区分に該当する成分を濃度限界以上含有しないため、区分に該当しないとした。 毒性未知成分を考慮濃度(0.1%)以上含有しているため、区分に該当しないから分類できないに変更。 動粘性率が不明のため、分類できないとした。

1 2. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性):	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期(慢性):	(毒性乗率×100×区分1)+(10×区分2)+区分3の成分合計が0%のため、区分に該当しないとした。
生態毒性:	データなし。
残留性・分解性:	データなし。
生体蓄積性:	データなし。
土壤中の移動性:	データなし。
オゾン層への有害性:	データ不足のため分類できない。

1 3. 廃棄上の注意

産業廃棄物(廃液)として許可を受けた専門業者に委託する。
容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に処分する。
容器、機械装置等を洗浄した排液等を、地面や排水溝へ流さないこと。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒・落下・損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

国内規制

陸上輸送: 消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法による。
海上輸送: 船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送: 航空法に定められている運送方法に従う。
国連分類: 非該当
国連番号: 非該当

1 5. 適用法令

労働安全衛生法:	非該当
毒物及び劇物取締法:	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法):	アルファーアルキルーオメガーヒドロキシポリ(オキシエチレン)(アルキル基の炭素数が9から11までのもの及びその混合物であって、数平均分子量が1,000未満のものに限る。)(政令番号:580)(1.1%)
消防法:	非危険物
海洋汚染防止法:	有害でない物質(施行令別表第1の2)
外国為替及び外国貿易法:	輸出貿易管理令別表第1の16の項

1 6. その他の情報

注意事項: 本データは、工業的な一般的取扱いに際しての、安全な取扱いについて最新の情報を集め、記載したのですが、必ずしも充分とはいえないので取扱いには充分注意して下さい。
新たな情報を入手した場合は、追加または改訂されることがあります。

本製品の取扱いに記載されている以外の他の化学物質を混ぜたり、特殊な条件で使用するときは、ユーザーが安全性の評価を実施してください。

参考文献

- 1) GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法—ラベル、作業場の表示及び安全データシート (SDS): JIS Z 7253:2019)
- 2) 製品安全データシートの作成指針 平成18年5月 (社団法人 日本化学工業協会)
- 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ
- 4) 原材料/製品メーカー SDS